

2024年12月1日

中東関係者各位

九門康之

「中東なう」12月

1. 中東の融和と米国

2021年以來、中東の主要国は融和に舵を切っている。サウジアラビアやアラブ首長国連邦(UAE)はカタールと和解しボイコットを解除。宿敵とみられたイランとも外交関係を正常化した。かつて、アラブ諸国の中でイランとの交易はUAEのドバイの独壇場だったが、いまでオマーンありカタールありクウェートあり、さらにサウジアラビアも参入するとイランは普通の隣国になる。ペルシャ湾(アラビア湾)が穏やかな時は地域が繁栄する、というがこの流れはまさにその方向にある。

これを米国はどうみるのだろうか。イランを仮想敵国に仕立てることで、アラブ諸国を引き寄せ、武器を売ってきた。イスラエルはあいかわらずイラン敵視を続けているが、中東の隣国全てを改めて敵にしたいだろうか。米国にとって、中東からのエネルギー輸入が必須でなくなった今、アラブ諸国をけしかけて味方にしておくメリットは薄れてきたといえる。

2. したたかなシリア

2023年5月、シリアはアラブ連盟に復帰した。サウジアラビア他有力国が合意したからに他ならない。この動きを受けて、シリアとクルド問題で角を突き合わせていたトルコも、態度を軟化させるなど、方向を修正している。今後の予想は難しいが、レバノンの混乱が終息した場合、シリアは隣接する有力国として勢力を拡大できるはずだ。

現在、シリア北西部のアレッポ付近では、反政府勢力が勢いを増している。これに対しシリア政府はロシアと共同で反撃を試みている。シリアを支援するイランは、反政府勢力の動きは米国の支援によるものだと発言している。イスラエルが、ハマス・ヒズボラ・イランと複雑な敵対関係を維持するなか、隣国のシリアは沈黙している。アサド大統領は現在の情勢をどうみているのだろうか。したたかな外交でアラブ諸国とイランの双方に人的パイプを築いたシリアの動きに注目したい。

3. 補足、年末年始に向けて

年末年始は中東で大きな出来事が起きやすい時期にあたる。チュニジアで発生した「アラブの春」、エジプトアレキサンドリアの教会焼き討ち、サウジアラビアのシーア派指導者処刑などいずれもこの時期に起きている。日本人であるがゆえ年末年始を意識するのもかもしれないが、いずれにしても注意したい。

4. その他のニュース

●パレスチナ、ハマスとファタハが対話●米国、カタールにハマス追放を迫る●米国、トルコのハマス支援を問題視●トルコ、国内にハマスの事務所はない反論●イラン、カタールとの間に海底トンネルを計画●ドバイ、DAMAC社（不動産）が高級旅客機運行を検討●ドバイ、レストランの調理でアルコール使用禁止に●サウジアラビア、国防大臣が在サウジアラビア中国大使と会談●エジプト、新難民法を議会で協議（注：ガザ難民を受け入れる準備ではないかと推測される）●モロッコ、カサブランカ以南の高速鉄道を中国に発注●レバノン、米フランスがイスラエルとの停戦を仲介●エジプト、ナセルカーズ（40年以上前にイタリア・フィアットのライセンスでエジプト国産車を生産していた国営企業）が復活●サウジアラビア、第三の国営航空会社を認可（本社ダンマン）●

以 上